

# 「令和7年度のメインテーマ」 すずめ組（0歳児）、ひばり組（1歳児）、はと組（2歳児）

※幼児期の教育は「生活の学び」と「遊びの学び」です。「生活の学び」は保育園生活を通して、生活の自立をめざします。「遊びの学び」、特に体験を通じた遊びは、こどもの感覚を豊かにし、小学校教育の基礎となります。そのためには、やらされるのではなく、「やりたくなる体験」が重要です。当園のわくわく保育は、こどもが体験（遊び）の中でめばえた興味関心を広げたり深めたりする保育です。こどもの姿で保育が変化するため、こどもも保育者も共に“わくわく”するのはです。保護者の皆様もわくわくしていただけたらうれしいです。3歳未満児クラスは、五感が豊かになる体験と保育者との愛着関係を大切にします。

## テーマ「雨」

**見る**⇒雨の降る様子を様々な角度から見ることで、降り方の違いを感じます。

**聞く**⇒雨の音を様々な場所で聞くことで、音の変化を感じます。

**さわる**⇒見る、聞くの体験からめばえる「ふれたい」という思いを主体的に体験します。

**嗅ぐ**⇒保育者との関わりの中で、雨ににおいがああることを感じます。

### 【活動の展開】

以上児クラスの活動をまねたり、絵本の影響により、さらに水遊びや色水遊びへと興味が見られ、展開されることで保育が変化し、「水」の性質を知る機会を広げます。

## テーマ「花と葉」

**見る**⇒園庭や地域に咲いている花や木の葉など、1年を通して見ることで、植物の変化を感じます。

**さわる**⇒手にとりたい、さわりたいという思いが芽生え、主体的に体験することで、花や葉に違いがあることを感じます。

**嗅ぐ**⇒つばきやシロツメクサ、たんぽぽなど身近な花や、各家庭からいただく花などの香りに違いがあることを感じます。

### 【活動の展開】

自然の移ろいと共に変化する花や葉に気付くことで、季節の変化を楽しむようになると、見通す力の成長につながります。子どもたちの示す興味関心を遊びに活かすことで、深いかかわりが見られるようになります。

## テーマ「鳥」

**見る**⇒散策や窓からの風景の中にとりの存在に気付き、繰り返される体験の中で、鳥に種類があることに気付きます。

**聞く**⇒カラスやすずめ、とんび、ハクチョウなど、鳴き声の違いを感じます。

### 【活動の展開】

運動機能の発達とともに活動が活発になる頃、発見した鳥の写真を掲示したり、図鑑を作ったりすることで、観察する力の基礎となります。（園の北部に位置する仏沼はラムサール条約に登録されている湿地帯であり、おおぞら小の学習しています。3歳以上児クラスでは年1回、仏沼観察会を行っています。）

## テーマ「虫」

**見る**⇒散策の中で虫を発見したり、3歳以上児クラスが採集した虫を見せてもらうことで、生き物への興味が増えます。

**聞く**⇒虫のふれあいの中で、ケースの中の虫の歩く音や、秋の頃の鳴き声にふれることで、生き物の生態に興味が増えます。

**さわる**⇒「つかまえない」「さわりたい」という意欲が生まれ、試行錯誤の体験をします。

### 【活動の展開】

ゲーム機や玩具とは異なり、自分の意思の通りにはならない生き物とのふれあいは、繰り返し挑戦してみようという良き体験となります。3歳以上児クラスではカブト虫の飼育を行っており、0歳から6歳まで生き物に触れます。

## テーマ「雪」

**見る**⇒ふりはじめから積もる様子を観察することで、天候により降り方が変わることを感じます。

**さわる**⇒冷たさや形作られたり、溶けたり、凍ったり、滑るなど形状が変わる様子を楽しみます。

**聞く**⇒雪の状態によって音が変わることを感じます。

### 【活動の展開】

雪とのふれあいは、雪国に生まれたからこそ体験です。3歳以上児クラスでは、色水を凍らせたり、人型を作ったり、かまくらを作るなど遊びを広げます。地域ならではの体験は、地域（ふるさと）を愛する心が育まれ、これからの人生の土台となります。